

第3回 SPARC Japan セミナー2020

「初めての研究データ」

開会挨拶 / 概要説明

八塚 茂

(バイオサイエンスデータベースセンター)



八塚 茂

国立研究開発法人科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンター研究員。システムエンジニア等を経て、2015年10月より現職。生命科学データのリポジトリ運営に従事。研究データ活用協議会 (RDUF) 傘下のジャパン・データリポジトリ・ネットワーク (JDARN) 代表、2020年度SPARC Japanセミナー企画ワーキングメンバー。



セミナーの企画概要

ちょうど1年前の SPARC Japan 2019 の中で、「実践研究データ管理」というセミナーを開催しました。このセミナーは、単なる理論ではなく、参加者が明日からできる研究データ管理をイメージすることを目的として開催したものです。その中では、データリポジトリや図書館の実例、研究データ管理を支援するためのツール、研究データ管理を担う人材育成の取り組みについて発表が行われました。パネルディスカッションでは、研究データの管理における研究者、研究支援職員、図書館職員の役割や、役割を超えた全ての関係者が共有すべき理念やリテラシーについて議論しました。

今年はその第2弾として、研究データの管理・公開のための実践知を共有することを目的としてこのセミナーを開催しています。特に今回は、研究データの管理や公開をこれから始めようとしている方々を応援したいと考えています。そして、これを始めるに当たって検討しなければならないことがたくさんあるので、課題やその対応方法について皆さんと共有したいと思います。

本日は、まず研究データの管理・公開の実例や課題を知るということで、日本の大学における実例を三上

様から発表していただきます。それから、海外（ヨーロッパ）の事例については神谷様からご講演いただきます。次に、研究データのリポジトリの評価方法や日本の現状についての調査実績を安原様からご講演いただきます。そして、実際に研究データ管理を行うための便利なインフラが既にできています。その代表格として、J-STAGE Data について加藤様から、GakuNin RDM について込山様からご説明を頂きます。そして最後にディスカッションという順番で進めたいと思います。